慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	舞踏研究の国際的再検証と基盤構築
Sub Title	Examination and construction of the international basis of Butoh studies
Author	小菅, 隼人(Kosuge, Hayato) 本間, 友(Honma, Yu)
Publisher	
Publication year	2014
Jtitle	科学研究費補助金研究成果報告書 (2013.)
JaLC DOI	
Abstract	研究期間を通じて「舞踏研究の国際的再検証と基盤構築」を推進するべく、海外の現状についての情報収集を積極的に行い、日本における舞踏の展開について国内外の学会や研究集会で情報発信を行った。これによって、ヨーロッパ、アメリカ、アジアにおいて、舞踏の発生から今日に至るまでの過程が発信されると共に、舞踏研究の国際基盤の必要性についての認識が共有された。また、単に舞踏が日本発の前衛パーフォーマンスとして認知されるだけではなく、アカデミズムの中での舞踏研究の国際基盤の構築の展望が見えた。さらに、1970年の舞踏の新資料を発掘し国際公開することで、舞踏研究の方法論を国際的な場で具体的に示すことができた。 Pursuing the research subject "Examination and Construction of the International Basis of Butoh Studies," we have collected the information on the present situation and accumulation of Butoh research of foreign countries, and we have shared the basic information on the making of Butoh performance and our own situation on the academic achievements in Japan in the several international conferences. According to our effort of information sharing, Butoh researchers in Asia, Europe and America got recognized the making and development of Butoh performance, and we have been able to get the perspective of making Butoh researchers' network in international basis. In addition, we proposed one of the research methods through the process of discovering the new material and reconstructing Butoh performance in 1970.
Notes	研究種目：基盤研究(C) 研究期間：2011～2013 課題番号：23520181 研究分野：人文学 科研費の分科・細目：芸術学・芸術学・芸術史・芸術一般
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KAKEN_23520181seika

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ５ 月 １９ 日現在

機関番号：３２６１２
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2011～2013
課題番号：２３５２０１８１

研究課題名（和文）舞踏研究の国際的再検証と基盤構築

研究課題名（英文）Examination and Construction of the International Basis of Butoh Studies

研究代表者
小菅　隼人（KOSUGE, Hayato）

慶應義塾大学・理工学部・教授

研究者番号：４０２４８９９３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　4,100,000円、（間接経費）　　1,230,000円

研究成果の概要（和文）：研究期間を通じて「舞踏研究の国際的再検証と基盤構築」を推進するべく，海外の現状についての情報収集を積極的に行い，日本における舞踏の展開について国内外の学会や研究集会で情報発信を行った．これによって，ヨーロッパ，アメリカ，アジアにおいて，舞踏の発生から今日に至るまでの過程が発信されると共に，舞踏研究の国際基盤の必要性についての認識が共有された．また，単に舞踏が日本発の前衛パーフォーマンスとして認知されるだけではなく，アカデミズムの中での舞踏研究の国際基盤の構築の展望が見えた．さらに，1970年の舞踏の新資料を発掘し国際公開することで，舞踏研究の方法論を国際的な場で具体的に示すことができた．

研究成果の概要（英文）：Pursuing the research subject "Examination and Construction of the International Basis of Butoh Studies," we have collected the information on the present situation and accumulation of Butoh research of foreign countries, and we have shared the basic information on the making of Butoh performance and our own situation on the academic achievements in Japan in the several international conferences. According to our effort of information sharing, Butoh researchers in Asia, Europe and America got recognized the making and development of Butoh performance, and we have been able to get the perspective of making Butoh researchers' network in international basis. In addition, we proposed one of the research methods through the process of discovering the new material and reconstructing Butoh performance in 1970.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：芸術学・芸術学・芸術史・芸術一般

キーワード：舞踏　パーフォーマンス　東北　現代芸術　土方巽　大阪万博

１．研究開始当初の背景

（１）国内では，1986 年の土方巽の逝去後，1998 年に慶應義塾大学アート・センターに土方巽アーカイヴが設立され，土方巽関連の一次資料の大部分が寄託，公開されて以来，同アーカイヴを中心に，積極的に研究が推進され，成果が公開されてきた．その中で最も網羅的なものとして，舞台記録映像の CD－ROM を添付した総合研究書というべき『土方巽の舞踏：肉体のシュルレアリスム，肉体のオントロジー』（慶應義塾大学アート・センター編，慶應義塾大学出版会，2004）がある．さらに，土方巽自身の著作（河出書房新社『土方巽全集』，1998）や伝記（元藤燁子『土方巽とともに』，1990／稲田奈緒美『土方巽：絶後の身体』，2008）が刊行されてきた．さらに，関係者による多くの回想の文章が発表され，土方舞踏の技法をめぐる研究書（三上賀代『器としての身体 土方巽・暗黒舞踏技法へのアプローチ』，1993）も刊行されている．また，日本舞踊学会，日本演劇学会，美学会などで研究発表や学術論文も発信され，土方舞踏をめぐる博士論文も発表されている（Nanako Kurihara, *The most Remote Thing in the Universe: Critical Analysis of Hijikata Tatsumi's Butoh Dance*, New York University）．

（２）同時に，近年，舞踏への関心は国内よりもむしろ海外で高く，研究成果も外国語によるものが主流となってきた．フランス語による浩瀚な論文集 Butô(s)（CNRS Editions, Paris, 2002）やドイツ語による論文集 *Butoh : die Rebellion des Körpers ein Tanz aus Japan*（1988）も編まれている．さらに，舞踏の解説書として，S. Fraleigh, T. Nakamura, *HIJIKATA Tatsumi and OHNO Kazuo* (New York, 2006) や，評伝として S. Barber, *HIJIKATA : Revolt of the Body*（London, 2006）のような英語による著作があり，土方の著作の翻訳として *From Being Jealous of a Dog's Vein* (Mori-Ogai-Gedenkstätte der Humboldt Universität zu Berlin, 2006）などがある．その他，外国人研究者による著書，論文は枚挙に暇がない．また，IFTR（International Federation of Theatre Research）における舞踏の学術発表も近年，目立ってきている．

（３）しかし，こういった海外での研究成果は，日本に十分にフィードバックされていない．外国語文献は海外で流通し，舞踏研究において日本は空洞化の傾向がある．また同時に，海外での舞踏についての発表では，単なる紹介にとどまるか，誤解にもとづくものも散見され，正確な情報発信の必要性を認識させられる．

２．研究の目的

（１）1980 年代以降の舞踏の国際展開と世界的な受容，および2000 年以降における海外での舞踏研究の進展とその成果をふまえて，近年，創始者土方巽の身体表現，その創造の思想的根拠や社会的背景，その創造の方法と実践の内容をめぐって，研究の深化とともに，その意義と価値の再考が求められている．そこで，本研究では，国内での調査に加えて，海外における研究状況の調査と研究内容の分析をもって，舞踏の海外での受容と研究の実体を把握し，国内外の研究成果を再検証する．そして，研究者の交流と国際的議論の活性化を通じ，有効な研究成果の発信を実行するための国際的基盤の構築を目指す．

（２）土方巽が1959 年の『禁色』によって暗黒舞踏による芸術運動を開始して以来，肉体による近代超えを知らしめた1968 年の『土方巽と日本人―肉体の叛乱』と現代舞台芸術の展開点となった1972 年の『四季のための二十七晩』を経て，土方逝去の1986 年までに，日本の舞踏は世界を瞠目させる革新的舞台表現を生み出した．身体表現の革新性とその文化的価値は，今日の欧米での評価を見る限り，能・歌舞伎・文楽にも匹敵しうる．しかも，古典芸能とちがい，舞踏は世界の舞台芸術の一潮流となり，外国人も現代舞踊として舞踏を実践してきたのである．本研究でも，そういった状況を把握し，かつその内容を深く検討することにしたい．日本での舞踏研究が海外での舞踏への関心度に比して決して十分とは言えないのは，日本国内での舞踏に対する価値評価の低さと，研究体制の貧弱さが原因と考えられる．海外の研究成果を精力的に受信することで，研究者のみならず舞踏に関心をもつ多くの人に認知させることができるであろう．他方，日本からの発信を積極化したい．本研究でも，土方の舞踏における社会と芸術の関連を重視して，舞踏成立と展開のバックグラウンドの研究を適切にすすめ，外国における舞踏への「誤解」に対応すべきであろう．そのために，日本人研究者による，一次資料の活用と綿密な調査に基づいた研究と英語による国際発信を積極的に行うことを目的とする．

３．研究の方法

世界のなかで舞踏を考察し文化交換するため，国内外での調査と国際的な学術交流が求められる．23 年度は，国内での調査，資料収集，インタビュー，分析を実施し，24 年度は，1960-70 年代に土方と活動をともにした美術家へのインタビューに加え，海外での舞踏研究状況の調査，取材を実施するとともに，海外で刊行された研究文献の収集を行った．さらに，あらたな資料を発掘・分析・公開することにより，舞踏研究の一つのあり方を世界に発信した．25 年度は，資料収集・取材の結果を分析・総括するとともに，国内の研究資料の外国語への翻訳，海外文献の翻訳と分析を行った．得られた研究成果を報告書の刊行，資料集編纂，デジタル・コンテンツのパッケ

ージ化によって発信した．作業方法は，大きく取材，資料探索，資料調査と，それらをもとにした分析，執筆，翻訳と分けて行った．研究代表者，研究分担者とも全体に関ったが，国内の研究協力者のほか海外の研究協力者に取材・調査を依頼した．

４．研究成果

(1) 平成23年度は，1970年に大阪千里丘陵で開催された日本万国博覧会に出展されたパビリオン「みどり館」で上映された土方巽出演映画『誕生』とそれを取り巻く時代状況を主たる研究対象として，文献による調査・研究と関係者インタビューを勢力的に実施した．この目的のため，2011年8月6日には，大阪大学中之島センターを会場に，研究会と途中経過発表会を行い，情報収集と成果の検討を行った．さらに，2011年8月10日には，大阪大学豊中キャンパスにおいて開催された国際演劇学会において“Hijikata Tatsumi in the Age of High Economic Growth: A Rebellion of the Body, Birth in Expo ’70, and A Tale of Smallpox”というタイトルのもとでフィルム・セッションを行い，20名の海外からの参加者と共に意見交換を行った．この成果は，2011年12月に発刊された『慶應義塾大学日吉紀要：言語・文化・コミュニケーション』に「万博映画『誕生』（1970年）と土方巽」というタイトルで発表された．この研究過程で，土方巽の出演シーンのデジタル化が完了し，41年ぶりに『誕生』における土方の踊りの全容が明らかになったこと，5画面を連結した映像により，広大な山肌を駆け踊る土方巽の姿を確認できたことは大きな成果である．

さらに，土方巽の舞踏生成の社会・思想環境を再検証する「土方巽研究会」を発足させ，土方巽の命日である2012年1月21日に，慶應義塾大学三田キャンパスにおいて第一回の会合をおこなった．当日は，笠井叡氏を招き，多くの舞踏関係者の参加を得て，有益な情報収集を行うことができた．

(2) 平成24年度は，「舞踏研究の国際的再検証と基盤構築」を推進するべく，国際学会，海外における研究集会で情報を発信するとともに，情報の収集を精力的に行った．2012年6月には，英国リーズ大学で行われたパーフォーマンス研究における代表的国際学会であるPerformance Studies Internationalにおいて，“New Ecologies of Butoh: Expanding and Exploding ‘Cultural’ Articulations”（「舞踏研究における新しいエコロジー：文化的定義の爆発的拡張」）というパネルを組織し，研究協力者，海外研究者を含めてパネリスト4人で発表および30人を超える参加者とディスカッションを行った．その反響は大きく，2015年の日本での研究集会開催を打診された．また，2012年11月のソウルでの日本演劇学会研究集会に合わせて，韓国における情報収集も行った．ここでも，我々の研究課題に対する関心は高く，アジアにおける舞踏研究の基盤構築の必要性が参加者に認識された．論文業績としては，研究代表者は，『慶應義塾大学日吉紀要：英語英米文学』に“Transformed and Mediated Butoh Body: Corpus Moriens in “Hijikata’s Earthen Statue Project”（「舞踏身体の変容と拡張―研究プロジェクト『土の土方と水滴の時間』における〈衰弱体〉の表現について」）という査読付き英語論文を発表し，日本における舞踏研究の現状の一端を英語で発信した．

さらに，昨年度に引き続き，2013年1月21日，慶應義塾大学三田キャンパスにおいて，土方巽研究会（「土方巽を語ること」）を開催した．この会は土方巽の命日に行われ，草創期に舞踏確立に直接関わった多くの参画者，目撃者の証言を取ることが出来た．

（３）平成 25 年度は，慶應義塾大学アート・センター土方巽アーカイヴに所蔵されている未整理資料の調査および関係者のインタビューによって，特に舞踏黎明期における同時代芸術との密接な関係性が明らかになっ

た．また土方巽の故郷である東北地方での現地調査，関係者へのインタビューにより，舞踏に内在する東北の文化的特性に関する検討を進めた．同時代芸術と舞踏の関係性については，平成 24 年度開催の展覧会「土方巽＋中西夏之　背面」（慶應義塾大学アートスペース）内で調査結果を公開した．平成 25 年度は，アメリカ・スタンフォード大学での国際パーフォーマンス学会（Performance Studies International）において“Butoh Beyond Theatres: Temporality, Education, Community”と題して研究上映会とレクチャーを行った．また，この国際会議に合わせてサンフランシスコでも研究上映会を行った．さらに，秋には日台美学フォーラム（台北）においても，「拡張する舞踏の身体：「土の土方と水滴の時間」の実践についての再考察」として小菅隼人が発表を行った．この公演は中国語にも同時通訳され，また，中国語での出版もなされた．先に言及したように，本研究グループは，研究成果を共有し議論を深めるため，「土方巽研究会」を設置し，平成 25 年度までに計三回開催した．うち二回の「土方巽最後の言葉」は，これまで未着手だった土方巽最晩年の思想を調査する最初の試みとなった．

５．主な発表論文等
（研究代表者，研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　3　件）

① 小菅隼人，「拡張する舞踏の身体：「土の土方と水滴の時間」の実践についての再考察」，*ACT*，査読無，56号，2013年10月，pp. 146-155.（中国語）
② 小菅隼人，“Transformed and Mediated Butoh Body: Corpus Moriens in “Hijikata’s Earthen Statue Project”，『慶應義塾大学日吉紀要：英語英米文学』，査読有，62巻，2013年3月，pp. 51-73.
③ 小菅隼人，森下隆，本間友，「万博映画『誕生』（1970 年）と土方巽」，『慶應義塾大学日吉紀要：言語・文化・コミュニケーション』，査読無，43 号，2011 年 12 月，pp. 1-16.

〔学会発表〕（計　9　件）

① 本間友，「コラボレーションの所在：現代芸術アーカイヴの構築と活用」，日本演劇学会研究集会，2013年10月13日，椙山女学園大学.
② 小菅隼人，「拡張する舞踏の身体：「土の土方と水滴の時間」の実践についての再考察」，肉体の叛乱から形成まで：2013 日台身体美学フォーラム，2013 年 10 月 12 日，国立臺南大学，台北，台湾.
③ 本間友，「共同性に基づくアーカイヴ―慶應義塾大学アート・センターにおけるアーカイヴ利用」，表演藝術資料庫的建置，2013年10月9日，林柳新記念偶戯博物館，台北，台湾.
④ 小菅隼人，“Butoh Beyond Theatres: Ohno Kazuo on the University Campus”，Annual Conference，FIRT/IFTR International Federation for Theatre Research，2013 年 7 月 24 日，Institut del Teatre，バルセロナ，スペイン.
⑤ 小菅隼人，森下隆，本間友，“Butoh Beyond Theatres: Temporality, Education, Community”，19th PSi conference，2013 年 6 月 28 日，スタンフォード大学，パロ・アルト，アメリカ.
⑥ 小菅隼人，“Transformed and Mediated Butoh Body: Hijikata’s Earthen Statue Project and its Significance，Annual Conference，FIRT/IFTR International Federation for Theatre Research，2012年07月24日，チリ・カトリック大学，サンチャゴ，チリ.
⑦ 本間友，“The Role and Possibilities of the Generative Archive of Butoh: from Asbestos-studio to Hijikata Tatsumi Archive”，Performance Studies International #18，2012年06月28日，リーズ大学，英国.
⑧ 小菅隼人，“Tohoku as the Conceptual Roots of Butoh”，Performance Studies International #18，2012年06月28日，リーズ大学，英国.
⑨ 小菅隼人，森下隆，本間友，“Presentation and Screening: Hijikata Tatsumi in the Age of High Economic Growth: A Rebellion of the Body，Birth in Expo’70，and A Tale of Smallpox”，Annual Conference，Japan，FIRT/IFTR International Federation for Theatre Research，2011年8月10日，大阪大学.

〔その他〕
ホームページ等
http://portfolio-butoh.jp/

６．研究組織
(1)研究代表者
小菅　隼人（KOSUGE，Hayato）
慶應義塾大学・理工学部・教授
研究者番号：40248993

(2)研究分担者
本間　友（HOMMA，Yu）
慶應義塾大学・文学部・講師（非常勤）
研究者番号： 00650003